

高円寺パル商店街振興組合(杉並区)

賑わいを継続させるために、
さらに活気ある商店街づくりに挑む！「古着の聖地」に成長する
若者の街

杉並区高円寺は、JR中央線の高円寺駅を起点に北に7つ、南に7つの商店街が広がっている。南側で特に賑やかなのが「高円寺パル商店街(以下「パル商店街」)」。高円寺で唯一のアーケード商店街である。振興組合の設立は1972年。店舗数は約120店。物販が6割を占め、飲食とサービスが2割ずつという業種構成となっている。

高円寺は近年、若者が好むような古着を取り扱う店舗の出店が著しく、「古着の聖地」として注目される街となっている。その数は高円寺全体で100数十店に及び、多くがパル商店街のある駅の南側に集中し

ている。地元や沿線だけでなく都外など遠方からも多くの来街者を呼ぶことから、今や高円寺にとって欠かすことのできない業態だ。そうした

古着店を中心に、テイクアウト専門のカフェやスイーツ店など若者に人気の店も増え、空き店舗がほとんどない状態が続いているという。

今の賑わいを維持・継続していくために、地域の人々や来街者が商店街に対してどのような思いや要望を持っているのかを知ること、そして長期的な展望を持つことが必要と考え、『**商店街リーダー実践力向上塾(以下「リーダー塾」)**』のモデル商店街募集に手を挙げた。



リーダー塾で行ったアンケート調査で商店街の課題が明確に

『リーダー塾』は、商店街の実態調査を通じ、知りたいこと、知っておくべき重大な変化などを「見える化」する事業だ。高円寺パル商店街でも今回①来街者、②オーナー、③店舗、それぞれに対して調査を実施。各方面の満足度の高い活性化策は何かを検討した。

まず①の来街者向けアンケートで、この商店街に来た理由として、「買い物」が圧倒的に多いことが判明。以下「飲食」「観光・街歩き」「通勤通学」などが続いた。行く場所は「古着店」が最も多く、「スーパー」「カフェ」「飲食店」なども満遍なく利用していることがわかった。

次に②のオーナー向けアンケートでは、商店街の活動に必要なこととして「防災対策など安心・安全の維持」「地域の情報共有」「美観確保」「集客イベント」などが挙げられた。

続いて③の店舗向けアンケートでは、商店街活動に関する印象は半数以上が「活発」と感じており、自店のプラス効果も半数が「ある」と回答。パル商店街に開業した感想では、20%が「期待以上」、34%が「期待通り」と答えた。

高円寺エリアの商店街で開催されるイベントとして、春の『びっくり大道芸』、夏の『東京高円寺阿波おどり』、秋の『高円寺フェス』、冬の『演芸まつり』という四大まつりがあり、パル商店街はどれも中心的な立場で関わっている。中でも『東

京高円寺阿波おどり」はバル商店街が発祥とあって特に力を注いでいる催しとのこと。店舗アンケートの商店街活動が活発という評価は、こうした取り組みが反映されたものだと思う。だが、『商店街で行って欲しいこと』という問いで、『店舗や住民に対する情報提供』に並び『バル独自のイベント』が上位となった。大きな催しが街や商店街のブランド力向上には役立っているが、店舗への集客や売上アップには直結しにくいという意見がこのような結果として現れたと思われる。

アンケート結果を分析し、専門家とともに商店街の活性化を検討

アンケートの結果を元に、当面の活性化策として「人手をかけない独自イベント」と「商店街内外への情報発信の強化」が打ち出された。

「独自イベント」は、全店舗が参加してもらえよう業種を問わずメリットがあるもの、店舗や事務局への負担を極力かけないもの、店舗へ

の来店を促すもの、費用は現在の賦課金の範囲内で賄えるものを条件に、商店街共通のスタンプラリーの実施を決定した。3店舗でスタンプをもらい、抽選でバル商店街の商品券がもらえるという形を採用し、2019年の秋頃からサービスを開始する予定だ。

また「情報発信の強化」では、店舗やオーナー向け、来街者や地域住民向けに広報紙の作成を決定。店舗やオーナー向けには、設備や道路などの工事情報や新規出店があった場合の店舗紹介、オーナー紹介などを行い、来街者や地域住民向けにはバル商店街を含めた高円寺の様々な情報発信を行っていく予定だ。こうした取り組みを徐々に深めていけば、商店街活動への参加意欲や商店街そのものへの愛着もさらに増していくのではないかと考えている。

『リーダー塾』のモデル商店街に応募したのは、1つは、自分たちのやっていると客観的に見れなくなっていると感じたから。もう1つは、商店街のあり方も含めてこれからのように進んで行けばいいかを

見極めようと思ったからです。今回調査を実施し、活性化策を検討出来たことで、その目的は果たせたと実感しています。これをどう生かしていくか、ここからはわれわれの努力次第です。」と振興組合の富澤武幸専務理事。いかに元気な商店街でも、10年に1度ぐらいは商店街活動や今後の方針について、このような見直しの機会を設けることが大事だと話してくれた。



第62回東京高円寺阿波おどり



商店街データ
 名称／高円寺バル商店街振興組合
 会員数／77人
 店舗数／約120店舗
 所在地／杉並区高円寺南3-57-10
 電話／03-3311-7033
 H P／<http://www.koenji-pal.jp/>

活用プログラム
 商店街リーダー実践力向上塾

